

教育職員免許法等の改正に伴う経過措置について ＜新課程適用者（旧課程での修得科目あり）向け＞

教育職員免許法等が改正されたことにより、2019年4月1日以降の入学生から新しい教職課程（以下、「新課程」という。）が適用されることとなり、従来の教職課程（以下、「旧課程」という。）から必要修得単位数や開設科目が変わります。

このことに伴う経過措置等の対応は以下のとおりです。

1. 文部科学省が定める経過措置（基本ルール）

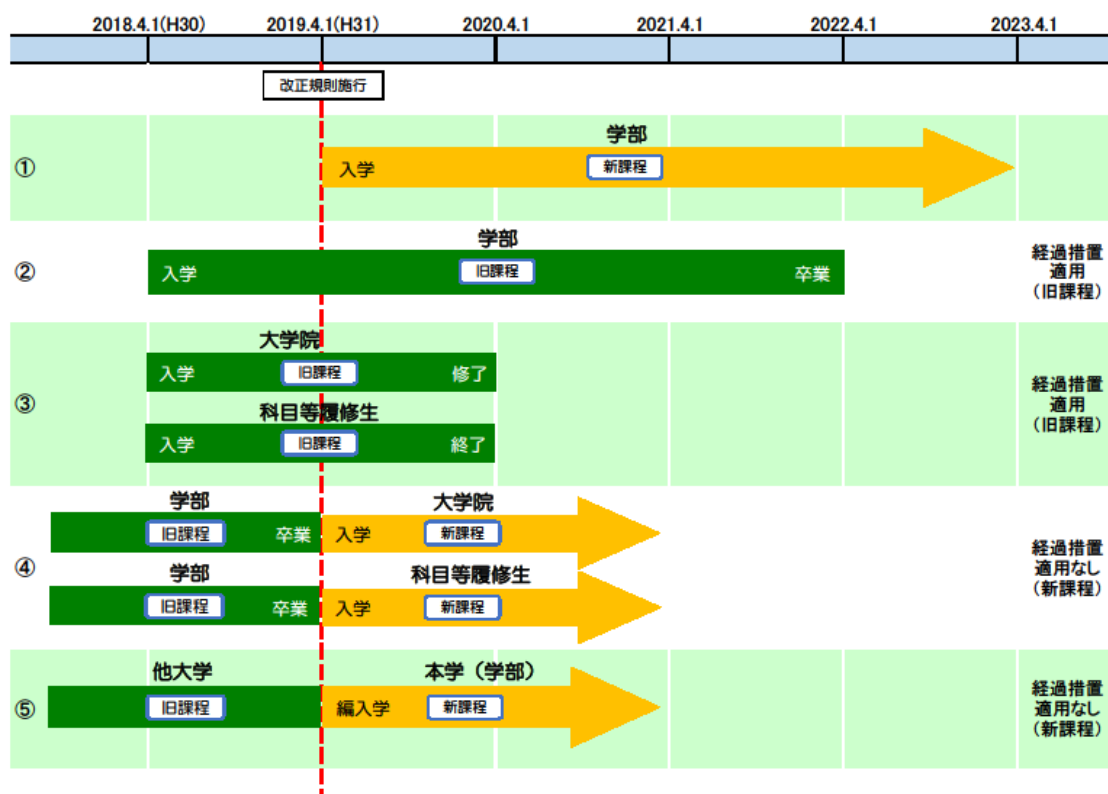
○ 経過措置の適用有無

＜＊一種免許状を取得する場合＞（※専修免許状を取得する場合については5ページを参照）

2019年4月1日以降に大学（学部、以下同様）に入学した者については新課程が適用されるが（図①の場合）、2019年3月31日以前に入学し、2019年4月1日時点で大学に在籍している者が卒業までに所要資格を得た場合は、経過措置が適用され、旧課程が適用される（図②の場合）。

また、2019年3月31日以前に大学院に入学し学部聴講により教職科目を履修している者、もしくは2019年3月31日以前に科目等履修生としての身分を有している者が、修了（終了）までに一種免許状取得のための所要資格を得た場合は、経過措置が適用され、旧課程が適用される（図③の場合）。

（図：経過措置の適用有無）



一方、大学を2019年3月（もしくはこれ以降）に卒業し、間を置かず大学院に入学した者が学部聴講により教職科目を履修、もしくは間を置かず科目等履修生として身分を取得した者が教職科目を履修し一種免許状取得のための所要資格を得ようとする場合は、旧課程適用時から在学関係が終了しているため経過措置が適用されず、新課程が適用される（図④の場合）。

また、2019年4月（もしくはこれ以降）に他大学等から本学に編入学した者が、本学において教職科目を履修し一種免許状取得のための所要資格を得ようとする場合も、経過措置は適用されず新課程が適用される（図⑤の場合）。（※旧課程が適用される学年に編入学した場合でも、新課程が適用される。）

○ 経過措置に伴う新課程・旧課程適用者への対応

新課程が適用される者（以下、「新課程適用者」という。）が旧課程において履修した科目については、大学が適当と認めるものは旧課程の科目から新課程の科目に読み替えることができる。

一方で、新課程の科目を旧課程の科目に読み替えることはできないため、2019年度以降、旧課程が適用される者（以下、「旧課程適用者」という。）は旧課程の科目、又は新課程の科目と旧課程の科目を兼ねる科目を修得することになる。

2. 本学における経過措置対応

○ 「旧課程」の科目の「新課程」の科目への読替について

新課程適用者が、2019年3月31日以前に本学において旧課程の科目を単位修得していた場合、大学が適当と認めるものは当該科目を旧課程の科目から新課程の科目に読み替えることができる。

読替が必要になるケースとして、2019年3月31日以前に本学（学部）に入学した者が、一部教職科目を単位修得したものの一種免許状の所要資格を満たさずに学部を卒業した後、2019年4月1日以降に本学大学院に入学し学部聴講により不足する教職科目を履修、もしくは科目等履修生としての身分を取得し不足する教職科目を履修して一種免許状取得のための所要資格を満たそうとする場合が想定される（p.1 図④の場合）。

1) 教育の基礎的理解に関する科目等（←旧課程の科目区分：教職に関する科目）

旧課程における「教職に関する科目」（※「各教科の指導法」については3ページを参照）の新課程における「教育の基礎的理解に関する科目等」への読替については、表1のとおり。

（表1：「教育の基礎的理解に関する科目等」旧課程・新課程の科目読替表）

旧課程（2018年度以前入学者適用）		新課程（2019年度以降入学者適用）	
科目名	単位数	科目名	単位数
教 職 基 礎 論	2	教 職 基 礎 論	2
教 育 原 理	2	教 育 原 理	2
教 育 心 理 学	2	教 育 心 理 学	2

—————	—	特別支援教育(注1)	1
教育制度論	2	教育制度論	2
教育課程論	2(注2)	教育課程論	1(注2)
道徳教育の理論と実践	2	道徳教育の理論と実践	2
特別活動の理論と実践(注3)	2	—————	—
—————	—	特別活動・総合的な学習 の時間の指導法(注3)	2
教育方法論	2	教育方法論	2
生徒・進路指導論	2	生徒・進路指導論	2
教育相談論	2	教育相談論	2
教育実習Ⅰ	2	教育実習Ⅰ	2
教育実習Ⅱ	2	教育実習Ⅱ	2
教職実践演習	2	教職実践演習	2

(注1) 「特別支援教育」は新課程から新たに開設される科目であるため、新課程適用者は必ず当該科目を単位修得する必要がある。なお、当該科目は2019年度入学生（新課程適用者）が2年次となる2020年度から開講する。

(注2) 旧課程の「教育課程論」は2単位の科目であるが、新課程の「教育課程論」に読み替える際は1単位の科目として読み替える。なお、新課程の「教育課程論」（1単位）は、2019年度入学生（新課程適用者）が2年次となる2020年度から開講する。

(注3) 旧課程の「特別活動の理論と実践」は、新課程の「特別活動・総合的な学習の時間の指導法」に読み替えることはできないため、新課程適用者は必ず「特別活動・総合的な学習の時間の指導法」を単位修得する必要がある。なお、「特別活動・総合的な学習の時間の指導法」は2019年度入学生（新課程適用者）が2年次となる2020年度から開講する。

2) 教科に関する専門的事項（←旧課程の科目区分：教科に関する科目）

新課程における「教科に関する専門的事項」（科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目）については、旧課程における「教科に関する科目」のうち、免許課程を持つ学部において適当と認めるものは「教科に関する専門的事項」として読み替えることができる。読替方法は免許課程を持つ学部において定めているので、取得を希望する免許課程を持つ学部からの別途案内を参照すること。

○「各教科の指導法」（各教科教育法）について

「各教科の指導法」は、旧課程においては、中学校教諭の免許状、高等学校教諭の免許状ともに4単位以上を修得することとされていたが、新課程においては、中学校教諭の免許状については8単位以上、高等学校教諭の免許状については4単位以上を修得することとなった。

本学において「各教科の指導法」の科目として開設している「各教科教育法」は、中学校教諭及び高等学校教諭の免許状の科目（国語、社会、外国語（英語）、数学、理科）については、

従来は各教科教育法Ⅰ～Ⅳのうち、Ⅰ・Ⅱ、Ⅲ・Ⅳの2科目ずつを隔年で開講していたが、新課程に移行後、2021年度からは原則的にⅠ～Ⅳの4科目を毎年度開講する。なお、高等学校教諭のみの免許状の科目（地理歴史、公民、情報、農業、商業）は従来どおり、Ⅰ・Ⅱの2科目を毎年度開講する。

各科目の開講年度及び旧課程・新課程の対応状況については、表2のとおり（※表中「旧・新」となっている箇所は「兼ねる科目」として開講する）。

なお、外国語（ドイツ語、フランス語）及び工業の教科教育法の開講については、該当免許課程を持つ学部の教職担当係に確認すること。

（表2：各年度の「各教科教育法」開講科目）

【中・高の免許状の科目】

（注）高校の免許状希望者が4単位修得するための科目の組合せは次の4パターン：ⅠⅡ、ⅢⅣ、ⅠⅣ、ⅡⅢ

科目名 \ 年度	2019年度	2020年度	2021年度以降
各教科教育法Ⅰ（2単位）	開講せず	旧・新	旧・新
各教科教育法Ⅱ（2単位）	開講せず	旧・新	旧・新
各教科教育法Ⅲ（2単位）	旧・新	開講せず	旧・新
各教科教育法Ⅳ（2単位）	旧・新	開講せず	旧・新

【高のみの免許状の科目】

科目名 \ 年度	2019年度	2020年度	2021年度以降
各教科教育法Ⅰ（2単位）	旧・新	旧・新	旧・新
各教科教育法Ⅱ（2単位）	旧・新	旧・新	旧・新

なお、「各教科の指導法」についても、新課程適用者が2018年度以前に本学において「各教科教育法」を単位修得していた場合、当該科目を旧課程の科目から新課程の科目に読み替えることができる。

旧課程における「各教科教育法」の新課程における「各教科教育法」への読替については、表3のとおり。

（表3：「各教科教育法」旧課程・新課程の科目読替表）

旧課程（2018年度以前入学者適用）		新課程（2019年度以降入学者適用）	
科目名	単位数	科目名	単位数
各教科教育法Ⅰ	2	各教科教育法Ⅰ	2
		各教科教育法Ⅲ	2
各教科教育法Ⅱ	2	各教科教育法Ⅱ	2
		各教科教育法Ⅳ	2
各教科教育法Ⅲ	2	各教科教育法Ⅰ	2
		各教科教育法Ⅲ	2
各教科教育法Ⅳ	2	各教科教育法Ⅱ	2

		各教科教育法Ⅳ	2
--	--	---------	---

※ 中学校教諭及び高等学校教諭の免許状の科目については、旧課程の「各教科教育法」は新課程の「各教科教育法」のⅠもしくはⅢ、またはⅡもしくはⅣのいずれかの科目に読み替えることができる。（両方の科目に読み替えることは不可。）

高等学校教諭のみの免許状の科目については、旧課程の「各教科教育法Ⅰ」を新課程の「各教科教育法Ⅰ」に、旧課程の「各教科教育法Ⅱ」を新課程の「各教科教育法Ⅱ」に読み替える。

[注意]

2018年度以前に中学校教諭及び高等学校教諭の免許状の科目の「各教科教育法」を4単位修得したが、一種免許状の所要資格を満たさずに学部を卒業した者が、2019年度以降に本学大学院に入学した場合、当該学生は新課程が適用される。中学校教諭の免許状を取得する場合は、学部時代（旧課程）に修得した「各教科教育法」4単位を新課程における「各教科教育法」4単位に読み替えた上で、中学校教諭の免許状取得に必要な8単位との差分の「各教科教育法」4単位を追加で修得する必要がある。

○ 専修免許状取得に関する経過措置について

専修免許状の取得についても、上述の一種免許状取得の場合と同様、2019年4月1日以降に大学院に入学した者については新課程が適用されるが、2019年3月31日以前に大学院に入学し、2019年4月1日時点で大学院に在籍している者が大学院修了までに所要資格を得た場合は、経過措置が適用され、旧課程が適用される。（※）

なお、旧課程における「教科又は教職に関する科目」のうち、免許課程を持つ研究科において適当と認めるものは新課程における「大学が独自に設定する科目」として読み替えることができる。読替方法は免許課程を持つ研究科において定めているので、取得を希望する免許課程を持つ研究科からの別途案内を参照すること。

読替が必要になるケースとして、2019年3月31日以前に本学大学院（博士前期課程）に入学した者が、一部教職科目を履修したものの専修免許状の所要資格を満たさずに博士前期課程を修了した後、2019年4月1日以降に本学の博士後期課程に入学し不足する博士前期課程の教職科目を履修（※）、もしくは科目等履修生としての身分を取得し不足する教職科目を履修して専修免許状取得のための所要資格を満たそうとする場合が想定される。

（※） 博士前期課程を修了した後間を置かず博士後期課程に進学した場合でも、文部科学省の経過措置では、学位課程の学修の継続にはあたらないとされるため、2019年3月31日以前から引き続き大学院に在籍していても経過措置は適用されない。